

花月

和書門類			
二	一	六	二
一	一	六	七
二	一	六	九
册	架	函	號

內閣文庫			
九	二	二	和
九	二	七	書
函	一	二	
一	二	九	
架	册	號	類

內閣文庫	
番號	和 24729
册數	212 (69)
函	199 216

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

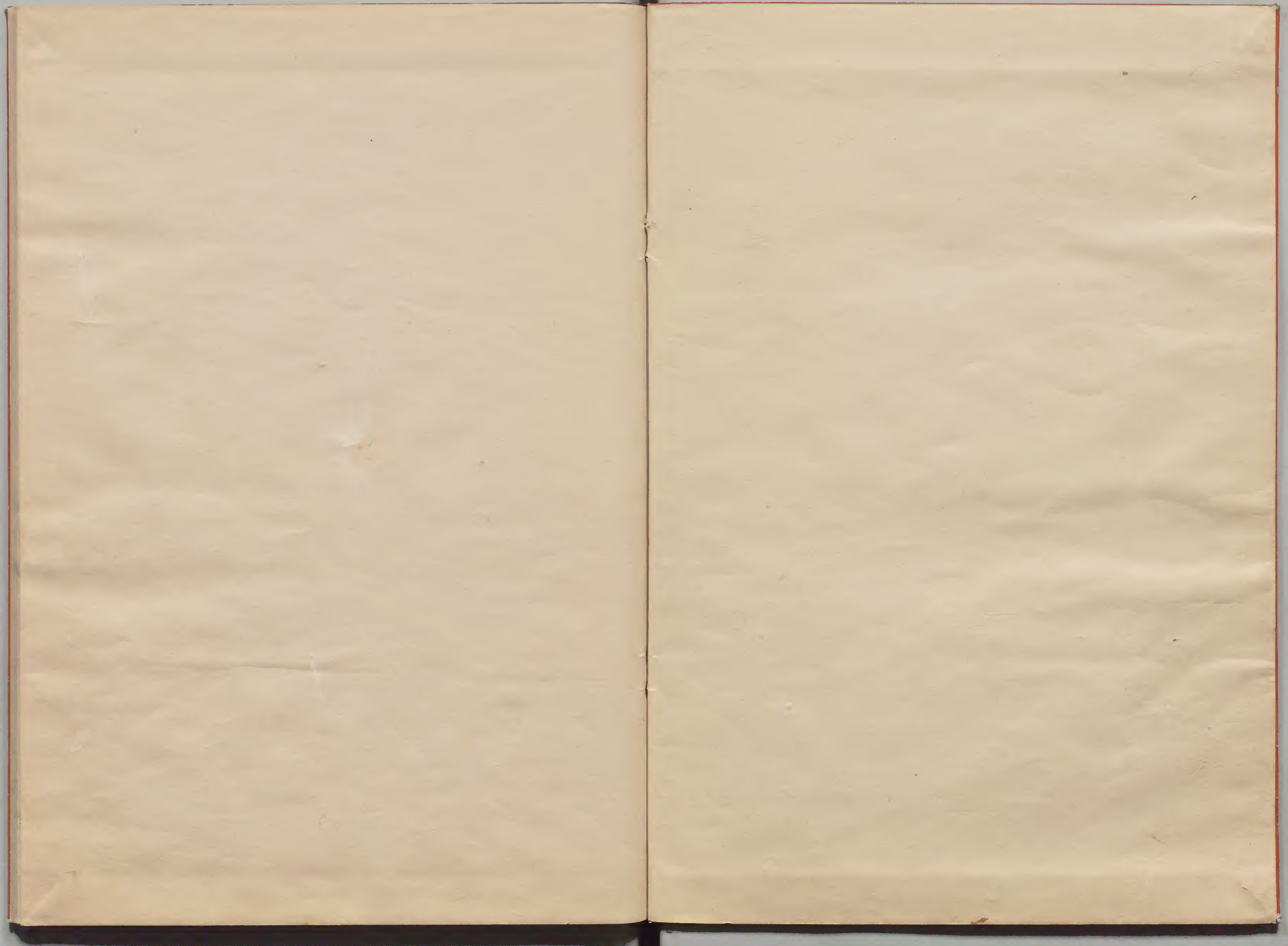
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





次第

柔

カゼ

一

一

一

一

一

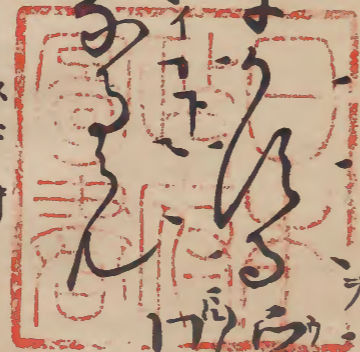
一

一

一

一

一



の林^{フモト}廉^{スモト}子^{スモト}住^{スモト}右^{スモト}ま^{スモト}れ^{スモト}僧^{スモト}少^{スモト}く^{スモト}作^{スモト}我^{スモト}
借^ジみ^ミく^クの^ノひ^ヒ一^{イチ}時^{トキ}子^コと^ト一^{イチ}人^{ニン}持^{モチ}て^テの^ノ
と^ト少^シく^ク花^{ハナ}か^カく^クう^ウ一^{イチ}あ^アひ^ヒて^テの^ノ程^{ホド}よ^ヨ
是^{コト}を^ヲ出^デ離^リの^ノ縁^エや^ヤお^オも^モひ^ヒか^カ横^{ヤウ}の^ノ段^{ダン}
と^ト取^ツり^リて^テ借^{シヨ}回^{コク}と^ト修^{シユ}り^リ仕^シ切^キあ^アら^ラぬ

鳥乃くまきけどく^カ生れぬ^サ先^キの
父^チ今^イ志^シく^ク志^シく^ク存^ゾぐ^グま^マして^シ我^ワ
世^ヨろ^ロ子^コと^トも^モ志^シく^ク志^シく^ク存^ゾぐ^グま^マして^シ我^ワ
爾^ニと^ト思^{オモ}く^ク存^ゾバ^バ道^{ミチ}も^モま^マよ^ヨあ^アる^ルも^モ
な^ナし^シや^ヤ味^{アジ}ふ^フと^ト海^{ウミ}は^ハい^イど^ドあ^ア
く^ク是^{コト}ハ^ハや^ヤ都^ツ子^シ志^シく^ク存^ゾぐ^グま^マして^シ我^ワ
承^{ウケ}及^タる^ル清^{キヨ}水^{ミヅ}も^モ美^ミく^ク花^{ハナ}と^トも

あ^アめ^メも^モや^ヤ思^{オモ}ひ^ヒ作^{ツク}あ^アめ^メく^クあ^アれ^レる^ル
人^{ヒト}よ^ヨし^シき^キふ^フの^ノ何^{ナニ}も^モあ^アて^テは^ハな^ナ
是^{コト}ハ^ハ志^シく^ク回^{クハ}乃^ノ者^{モノ}も^モ清^{キヨ}水^{ミヅ}へ^ヘ流^ナる^ル
依^ヨり^リ清^{キヨ}水^{ミヅ}へ^ヘ依^ヨる^ル女^メ子^コあ^アる^ル小^コ
て^テは^ハ清^{キヨ}水^{ミヅ}へ^ヘ依^ヨる^ル女^メ子^コあ^アる^ル小^コ
よ^ヨろ^ロ何^{ナニ}も^モ面^{オモ}白^{シロ}く^クあ^アる^ル女^メ子^コあ^アる^ル小^コ
何^{ナニ}も^モ何^{ナニ}も^モ面^{オモ}白^{シロ}く^クあ^アる^ル女^メ子^コあ^アる^ル小^コ

もも花月とP唱食のん生んが異形の
涙よて面白くは程いん今日も清水へ
い系あふふひあるまどくは彼人を見
せやんべーおらば花月とやらんを
見きて終るへ心づかぬ松屋の花
月とP者もある人我名を尋し
答へていづ月い常任ふーてふよ及

づんぎそくハの字ハとへぞ書ハ花夏
い此秋を菓冬ハ火因果のくハと
未期までも一向のためは残もといへ
む人足とやそキイイロ上向
祖ありとそ天下よかかれもあ
花月や我とPあり
今日い通くはむいづ

いとほしき花もよほびりーが花
心をわすれぬるあらしの友らと
中たぐりとそそりてをエあるバ

はまのともくもろををうてひて

極びりーシテハウ中ーラフあし今乃世

までも後せぬをを熱といへるを

よの美熱いをもの曲あくれ身ハ

さうらーくららコトイハコトさうらスラコトらクなニらト

秘しれなおそあれは僕らへラグヒスが花

を教しクシ作よヒすヒらヒがヒをヒ教

し作よフンレガシ村くオト落しウらヒは

らむあうりへヒ寫乃をれ踏フミ

ちらぬわうををオホ大長刀もあら

ぞしうクハ花月ゲツがヒ身よカクキ飲乃あをまマバ

た月かゝる家いもさびらハ的討せが
る又うらね落花狼藉の小鳥も
ぞ落んがるぐうー異國の楊中ハ
百井ノ柳乃葉とよめて百ノ百矢
とつふさぐさ守又や中ノ鳥も
討落をらねハ花乃楸の字と討
て落さずとさふ心ハ毛楊由小も

おとねまど^{上剛}あつ面白や柔うれハ柳
是ハ桜それハ鷹^カり^ハこれハ鳥
うれハ楊由うれハ毛月^ハう^ハら
ア^ハツ^ハね^ハら^ハよ^ハ落^ハて^ハい^ハよ^ハも^ハあ^ハら
ド^ハい^ハで^ハお^ハん^ハき^ハん^ハ字^ハつ^ハも^ハの^ハ見^ハ
きん^ハ字^ハと^ハそ^ハの^ハい^ハき^ハれ^ハあ^ハだ
を^ハん^ハぬ^ハそ^ハ大^ハ口^ハれ^ハる^ハバ^ハを^ハた^ハら^ハく

とり道服の袖をうづめて
花の本蔭に移るひよもいで
元無心村をわす思ふか
のいまめ深ふ教生戒をば
おれまじい言語を以面白
みぞをねおせられぬのう
ひとぐ乃あ寺に謂を曲舞

作里清うびゆるとめ
一帯清うびゆるとめ
あきふりうびゆるとめ
はらうそら剛さまら
の春乃も十悪の星よ
三十三身の秋乃月立
歌清し柳此寺を坂上の田村

麻呂大同二年此書の比奈創あり
—のみのかふも多羽山みのの
—の志しど里も得るともあり清
水乃流を催り汲ぎしん或時此
湖の水玉色よみして落せれらう
まをあらや—め山よ入る水とを
尋らよ—せし志ぬきんの岩の洞ら

中
水のかぐれようづもれて雅書柳
乃朽木ありオオキツ木より光る川吳
香田方よ薫むれバシカキハ
ふ所かく楊柳觀多此清志よ
るんめそま—まのらと皆人
とあぢも猶も多奇物を志ら
きてききと—きば朽木の柳ハ

緑をかき梅ありぬ老木まで
これ白牡丹の花に似きりさてころ
千手のおきよは桔さる木もこれ
咲や今の世もでもありあれ
あら不思議や是あれ花月と
よしくなるに果る借さる
あびりみめて候はるよ名のつて

あづやや思ひのうよ花月よ
つきよりのい 行事よて候
あまのいづくのいよそ後のぞ
い筑紫の者よていおそ行故か
よ諸回をはりらる 我七の
年産山よれほりいー天物
よさられてか横よ諸回を回り

作 ^{ワキ} 立てハ勢ふ変もあ一足

しう父よ忍びられてあう ^{物言} 兼

所僧ハ行ずと信らう ^口 口を作

此花月ハ某が信よて失ひ一子よ

ての程ハ身ヲ取よらん ^親 親と取

候ハ此を二つよわさる極よて候

此ハハ後ものもく候と御うら

候てうち連づつて故郷へ御歸らへ

武も我無芸彦山よらり七の年 ^{上見}

天狗よとられてけー山をら ^{エア}

思やれ一をりあられ ^ら

てゆらー山をらあれ ^イ

かききれ先飛雲よハ彦の山 ^イ

あき思いと田王子禮改よハ松山 ^イ

かつかつそ電のまろ殿さへ伯耆大
大山く丹後丹波のころいある鬼
が城やさハ天物ぶらもたう
ろや切らそ京ちうき山とさそ
京ちう紀山と愛宕の山のた庭坊
比良乃殿の坊名も高き
大比叡は少一心をみア一そ月

の横川のあぐれあれは来ハよう
よのそんてやなみあんとおあめ
小倉城やたらまの山と大峯
磯間やまの富士のきうねりあが
そはなをよちうあれももあ
か横は狂ひめぐりて心乱れこの
さうねりうくはうくやま

ては、い、ま、あ、て、い、か、ろ、う、い、ま、あ、て、
み、ね、ま、を、め、ら、り、く、て、我、父、よ、
あ、ひ、た、て、ま、う、つ、れ、終、り、さ、よ、今、あ、
此、さ、ら、な、ら、う、を、捨、て、も、ち、も、
よ、つ、れ、ま、う、さ、を、佛、道、つ、れ、
あ、ら、ま、を、佛、道、の、終、り、よ、出、ら、る、
終、り、か、ら、る、終、り、
終、り、

